

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190400012		
法人名	社会福祉法人 清水福祉会		
事業所名	グループホーム けいこう園		
所在地	多久市東多久町大字別府5222番2		
自己評価作成日	平成 25 年 6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年7月11日	外部評価確定日	平成25年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム けいこう園は「笑顔・和・思いやりを持って社会に貢献する」という法人共通の理念を基本として、利用者一人一人の人格と尊厳を尊重する介護を行うように頑張っています。
また、敷地内にある養護老人ホームとも自由に行き来ができ、養護のクラブ活動にも参加し顔馴染みの方との楽しい一時を過ごして交流を深めています。家庭的な雰囲気の中で利用者とスタッフが共に楽しく日常生活が送れるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR駅にほど近く、小規模ながらスーパーマーケット等商店も近くにあり、それでいて静かな環境に恵まれ、広い敷地に併設の養護老人ホームに隣接したグループホームである。医療機関を中心とした同法人には、隣接市に特別養護老人ホームをはじめ老人保健施設、小規模多機能施設等を有している。グループホームも二事業所目であるが、当該グループホームは開設されて二年と間がなく、「立地されている地域に是非貢献したい」という代表者の強い希望と地元の強い要望により開設された。法人の共通理念を基本として「入居者一人ひとりの人格と尊厳を尊重する」をホーム独自の理念として、「家庭的雰囲気を大切に」はもとより、事業所として地域密着を果たせるようにスタッフ一同頑張っている。建物内部もダイルールの天井の一部が吹き抜け構造になって天窓が設けられており、全体として明るい雰囲気になっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念やホームの介護理念を施設内に掲示し、各職員はその理念を共有し、実践に取り組んでいます。	法人の理念を基本とし、開設以来、ホーム独自に「入居者一人ひとりの人格と尊厳を尊重する」を定めて、週二回のスタッフ・ミーティング時や申し送り時に再確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日頃から利用者と一緒に近隣のお店に買い物に出かけるなどして交流を深めています。また同敷地内の養護老人ホームの協力を得て、クラブ活動や子供たちとの交流も深めることができています。	併設の養護老人ホームが市より指定管理を受けて長いので、このグループホームは開設されて間もないが、回覧板を回して頂いたり、区長さんを中心として地域の情報等も交換出来、日常的に交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して地域の中での認知症の理解を深めていただき、また施設に見学にこられた方に対しては支援の方法などについて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、区長・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・入居者家族などに参加して頂き、取り組みや実態についての報告を行っている。会議の中での意見やアドバイスは、施設サービスの向上のために役立てている。	会議は開設以来、2ヶ月に1度開催し、記録もファイルされている。参加メンバーも行政、地域代表、入居者、家族代表、そしてホーム関係者と幅広い方々の出席がみられる。内容もホームの状況説明、行事の結果報告・計画の説明、また、防災訓練等その時々での行事について話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市のケア会議を中心に市役所との連携を図っている。	行政の方は「運営推進会議」に積極的に参加して頂き情報の交換はできている。又、必要に応じて施設長が中心となって取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同拘束しないケアの理解に努め、拘束しないケアを基本原則としている。玄関・居室の施錠も行っていない。ただし、入居者の身体・精神状況により拘束せざるを得ない状況が発生した場合は、家族様の同意を得た上で、スタッフ一同ミーティングの際に話し合い、対応するようにしている。	身体拘束についてはスタッフ一同、入居者に与えるリスクを研修等により十分に理解している。開設当初、環境の変化により、入居者の安全を保つため、拘束せざるを得ない場合もあったが、家族の協力を得られて短期間で済んだ。現在は、拘束はなく、職員の気配りのもと安全な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同高齢者虐待防止法の理解に努め、毎日の生活の中で注意を払い対応するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は県の研修支援事業を利用させていただき外部研修へ積極的に参加することができた。年度末にはスタッフ一同で情報を共有するための発表の場を設けたりして理解を高め、必要な状況が生じた際には速やかに対応が取れるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については、時間をかけて話し合いを行い、納得いただける状況は確保されている。ただし、入居者ご本人は理解できないことが多く、主体はご家族様となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているもののなかなか利用されるケースはない為、日頃から入居者やご家族様とのコミュニケーションを密にし、様々な意見・要望を表していただくよう伝え、必要と認められたものについては、運営に反映させるように努力している。	家族代表の方には運営推進会議に参加して頂き、忌憚のない意見や提案を頂けるように配慮している。又、面会に来られた家族には施設長や管理者が出来るだけ面会し、話が聞けるようにしている。これまでには家族から洗濯物の管理について意見を頂き、運営に反映した例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティング(2週に1回)を始め、その都度スタッフの意見や提案を聞く機会を設け、反映を図っている。	スタッフとは日頃からコミュニケーションを密にするように管理者も心掛けている。週二回行っているスタッフミーティングも自由に発言出来る雰囲気を大事にしている。又、相談も受けられるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がそれぞれが応分の職責を自覚し、目標をもって仕事に取り組むように、給与・賃金などの勤務条件、施設整備などの職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験・実績などを踏まえ、本人が主体性と課題を持って研修に参加するよう積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の同事業所との交流を図るほかグループホームの研修会などに参加し情報交換などに積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、できる限り本人と会話をする機会を作りながら、安心して話が出来る関係を築き、本人が自分の思いを言動で表しやすい状況をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、ご家族様と会ったり、話したりする機会を多用し、まずは安心して話が出来る環境を作るよう配慮している。話をしやすい状況づくりながら傾聴し、状況に応じた返答やアドバイスを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人・ご家族様の要望を聞き、生活状況・家庭状況などを照らし合わせた上で、他のサービス利用が必要と思われる場合は、ご家族様と本人を含め十分話し合った上で支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者のできることを見出し、生活レク参加などの共同作業において共に暮らす物同士としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族様の絆を大切にしながら、面会時や電話の際に近況をお伝えしたり、ご家族様の要望を確認するなど情報交換をおこない、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた馴染みの方や知人等へ再来の言葉かけなどを行い、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。また、場所についてもいつでも記憶に留まるように会話の中に取り込んでいくよう努めている。	家族の入居者への面会時にご近所の友達や親族の馴染みの方々がついて来られたりしている。かつて住まれていた所や、先祖のお墓参り等は家族と相談しつつ協力を頂きながら、関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者のほとんどが日中ホールで過ごされることが多く、生活レクやレクリエーションなどの共同の場を通して、入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退所されてからも、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・ご家族様からの相談などに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント作成時より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また日々の関わりの中で何気ない言葉や表情から、その方の思い、希望などの把握に努めるようにしている。困難な場合はご家族様と相談の上本人本位で検討している。	毎朝、バイタルチェックの後、リハビリ体操をし、朝の会を行っている。その中で一日の過ごし方について話し、レクリエーションや献立について、入居者の希望や意向の把握に努めている。無理な方については本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時、本人やご家族様、紹介先の担当者から情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの現状をもとに、入居後一人ひとりの一日の過ごし方は様々であるが、本人が過ごしやすいように努めている。また、心身の状態で本人の有する力などの把握に努め、本人の希望を取り入れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状では計画作成担当者が本人やご家族、医療関係者の意向を踏まえ計画を作成し、介護者は日々の観察に基づきミーティングなどで検討している。日々の介護記録などにより現状に即した介護計画となるようすすめている。	開設して間がなく、現状は介護計画作成者が中心となって入居者本人と話し合い、家族の希望や意見を傾聴し、日々の介護記録(ケース記録)を基に原案を作成、スタッフ会議の席上でまとめている。今後スタッフの研修に努め、居室担当者も参加してまとめられるように充実させていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録記入は実践され情報の共有はできている。記録の方法や情報の共有方法などは常に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズやニーズの変化に対して柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりが必要としている地域資源について把握し個々にあった地域資源を活用できる支援を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望を重視しながら、適切な医療が受けられる状況は確保している。園の提携医療機関からも週1回の定期訪問を受けている。また状況により家族様への提案や調整もできている。	入居者の半数以上の方が家族の送迎により、従来のかかりつけ医の診察を受けている。家族の送迎が無理な時はホームで支援して、かかりつけ医との関係が途切れないようにしている。又、個人契約されている在宅診療の訪問診療による月二回の定期訪問もあるので受診されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを同一敷地内の看護職員や訪問看護師等に伝えて指示をもらい、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	病院関係者との情報交換や相談事の対応は図られている。入退院時に限らず、日常的に病院関係者との連絡や調整ができる関係づくりが行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族様と共に話し合う機会を持つようになっている。また重度化した場合における対応に係る指針を掲げ、最終的にはご家族様の希望に添えるように取り組んでいる。	ホームの運営規定のなか「重度化した場合における対応に係る指針」が定められており、入居契約時に本人や家族へ十分に説明し方針が共有されている。又、現実の状況になったらご家族の希望を尊重しながら協力医を含め、地域の関係者と連携し支援に取り組む体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム提携医療機関や協力病院は24時間の連絡に対応する体制はとれていて、それをマニュアル化し掲示している。応急処置などの訓練については思うように実践できていないので早急に取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む年2回の避難訓練の実施においては消防署や養護老人ホームと連携を取り、避難の方法について身につけるよう訓練を行っているが、地域との協力体制については再確認し早急に協力体制を築くようにする必要がある。	火災について年2回の訓練を実施している。うち一回は通報・消火・避難の総合訓練として、併設の養護老人ホームと合同で実施している。災害訓練は広域避難場所が養護老人ホームの敷地になっており、グループホームもそこに集合している。	今後は、職員だけの誘導の限界を踏まえて、実際に近隣住民の参加・協力を得ての避難訓練に取り組みされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、日常生活や会議等で話し合いを持ち、個別対応できるよう職員全員で取り組んでいる。	スタッフは施設内・施設外研修において接遇に関する研修を受けている。スタッフミーティング時にはホームの理念に基づいて常時話し合っていて、入居者に対する言葉使いや態度に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自らの思いや希望を表現できる環境になるよう心がけて支援している。自己決定についても自分で決定できる雰囲気づくりになるよう配慮し努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは大まかに決まっているが、「今日は何がしたい」等の声掛けを行い、本人に考える場をつくる。また入居者のペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える身だしなみは行ってもらい、その人らしい身だしなみやおしゃれができるような支援を行っている。また、理美容に関しては馴染みのお店を利用したり、美容師の免許をもつ職員が定期的にかットして対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者が食べたいものを入れ込むなどして提供している。調理や配膳など入居者に参加してもらい食事意欲や関心を高められるようにしている。	天井が一部吹き抜けで天窓が設けられ、太陽の光で明るくなった食堂では入居者が実に楽しく和やかな雰囲気のもと、ゆっくり食事を摂られている。元気な入居者は自らテーブル拭きや配膳や下膳に動かれている。スタッフも参加されて話も弾んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量などについてはチェック、また入居者の心身の状態により食事の形態などにも気を配るようにしている。お茶などはいつでも飲むことができるように準備している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを日課としている。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助の対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄についてはチェック表を作成・利用し個々の排泄パターンや能力に応じた支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄を促し、自立に向けて対応するようにしている。	入居者の排泄についてはチェック表を用いてパターンを把握し、習慣を活かし、声掛けや誘導により自立に向けた支援をしている。夜間もポータブルの必要な入居者には備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便状況を把握し個別の状況に応じた対応を実施している。水分量や運動量にも配慮している。また、必要に応じて看護師のアドバイスをいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は午後に設定しているが、要望に応じ午前中も可能である。入浴を楽しめるように入浴剤を使用したり、入浴中に歌を歌うなど楽しめる工夫もしている。	入居者の希望や要望により常時入浴が可能なように体制は整っている。しかし、一日の流れとしては、リハビリやレクリエーションを考えると午後入浴を基本に、週三回入浴を目標としている。体調により足浴や清拭を実施することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら夜間に安眠でき、さらにメリハリのある生活ができるように支援している。休息も希望に沿って対応・支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情で目的や用法、用量、副作用について確認している。服薬についての不安や疑問は看護師や訪問薬剤師に確認しアドバイスをもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の持てる能力に応じた家事などの参加を促したり、楽しみや気分転換が持てるよう心がけ、日々の支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画を作成し、実践している。天気の良い日は散歩や日向ぼっこ等気分転換を図っている。また、入居者に行きたい場所などを尋ねドライブなどに反映させている。	入居者は希望により、ほぼ毎日併設の養護老人ホームのレクリエーションに参加している。暖かく、お天気の良い日には敷地内をスタッフ共に散策している。又、計画により全員でバスハイクも実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力に応じてお小遣い程度もっておられ、外出などした際にご自分が見たいものをご購入されている。戸惑っておられるような方については援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来ることは少ないため電話でのやり取りが多いが、本人が電話を希望されたり、かかってきた電話に出ていただくなどの支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段はホールの椅子に座って過ごされることが多く、四季の花を眺めたりスタッフや入居者同士での会話などしてそれぞれが居心地良く暮らせるよう心がけている。壁には入居者と一緒で作ったカレンダーや外出した時の写真を貼ったりしている。	共用スペースは全体的に採光が良く考慮されていて気持ちよく過ごされている。適度にカーテン等で遮光がされ、温・湿度計も備えられて換気も適度である。壁面には行事写真や季節を感じさせる切り花の装飾もあり、居心地良い工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホール内のソファなどを利用して過ごされたり、入居者同士で居室で会話をされるなど思い思いの場所で過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は本人・ご家族様へ安心した居室づくりを伝え、自宅で使い慣れたものを置いたりして個々の落ち着いた生活空間となるよう、室内空間を整えている。	開設から間がなく、居室内は使い慣れた物がまだ少なく感じられるが、家族の協力も得られ少しずつ増やされている。壁にはお孫さんや家族の集合写真も見られ、少しずつ部屋づくりの工夫がされてきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、一人ではできないことではできるだけ本人にまかせ、出来ない部分のみ援助するようにしている。トイレの場所など共同で使用する場所がわかるように環境づくりにも心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない